

自ら社会的な視野を広めていく新聞活用のありかたを求めて

実践校第2年次 富士見町立本郷小学校 後澤 宏文

1 本校のN I Eの現状

本校は全校児童173名、各学年単級の小規模校である。N I E活動に関しては、昨年度実践校の指定を受けて新聞のスクラップ活動を行った他、信濃毎日新聞の方をお招きし、新聞の作り方を教わるなど、新聞を活用する機会が増えてきている。

昨年度は、新聞が子どもの学びや育ちに本当に役立つのだろうかという私自身の疑問があり、N I E実践学級として、総合的な学習の中で「4年生の子どもたちが新聞とどのように関わっていくのか」を探ってみた。本校では、全校研究テーマ「追究を楽しむ子ども」を掲げ、子ども一人ひとりの問題解決学習を大切にしている。新聞やテレビのニュースにほとんど関心がなく生活している4年生の子どもたちが、新聞と出会って、「追究を楽しむ」ことができるのかどうか。即ち、新聞と自分との間に何らかの接点を見いだし、そこから自分の課題を見出し、追究を深めていくことができるのかどうかを探っていきたいと考えた。そこで、新聞を段階的に読めるように指導し、毎日1つ気に入った記事をスクラップし、それをスクラップ新聞やスクラップ本にまとめて友だちに伝える活動を行った。成果として、どの子も自分なりに記事を選んでまとめ、友だちに伝えることができ、更に、集めた記事を見返す事を通して、自分の興味のある物事は何かということに気づいたり、友だちの集めた記事にも興味を持つことができた。しかし、内容的には漫画や広告写真等に目を向けた子が多く、新聞記事の内容には目を向けにくいという課題が残った。

2 N I Eで高めたい力

新聞には、子どもたちにとって身近な記事もあれば、ほとんど関わりのない距離的にも内容的にも遠い世界の記事も載っている。しかし、どの記事も現実の社会の出来事である。子どもたちが学校での学習を通して社会的に自立していくことを考えると、新聞との関わりを深めていくことは、それだけ社会に対しての関心を高めていくことにつながると考える。漫画や広告写真だけでなく記事の内容にも目を向け、社会事象についての自分なりの思いや考えを持ち、それを伝え合ったり深め合ったりする力を身につけ、社会的な視野を広めてほしいと願っている。

3 研究の概要

(1) 実践した教科等 … 総合的な学習

(2) 新聞の提供状況

新聞については、10～11月の2ヶ月間、信濃毎日新聞・信州日報・朝日新聞・産経新聞・日本経済新聞・毎日新聞・読売新聞の7紙を無料で配達していただいた。この7紙を教室の後ろの大机に7日間置き、朝の10分間読書の時間に必ず読むようにした。

(3) 新聞を取り入れた授業をする上で特に工夫したこと

どうすれば記事の内容に目を向けるようになるのだろうか。1年目は、子どもたちは自分の気に入った記事のみを集めたりまとめたりしていた。しかし、例えば気に入らない記事であっても、その記事が子どもたちに対して重要な関連性を持っているかもしれないのである。つまり、好みで記事を選ぶのではなく、記事との関連性に目を向けて選ぶことが重要なのではないだろうか。そこで、記事を集める段階で、子どもたちに記事との関連性（子どもたちには『つながり』という言葉で提案した）を意識させればよいのではないかと考え、今年度新たに、記事を集め始める前に、新聞から自分とつながりのありそうな記事を選んで内容を友だちに伝えると同時に、話し合いを通してその記事と自分たちとのつながりを考えるような練習場面を設定した。その後で、「自分とつながる記事」を毎日選んでスクラップしていく活動を行った。

4 単元の展開と本時

(1) 単元に行き付くまで

子どもたちが新聞と関わることを通して社会的視野を広めていくために、以下の①～④の段階的な学習を行えばよいのではないかと考え、実施した。

①新聞を読み取る（6～9月・約3時間）

新聞の内容を読み取れるようにするために、次のような新聞記事を紹介し、いつ、どこで、だれが、何を、どうした（5W）を読み取らせたり、「見出し」と「リード」から、記事の内容がわかることを実感させたりした。

- ・教師が国語や道徳の時間に新聞記事を紹介した。（「心がポカポカするニュース」等）
- ・新聞記事を配布して自分の力で内容を読み、どんな事実が書かれているか話し合ったり意見や感想を述べ合ったりした。（日本人拉致事件・シカの罠の効果・4コマ漫画）

②新聞とつなげる（10月・約3時間）

今年度新たに設けた段階である。自分と新聞記事とのつながりを意識できるように、新聞から自分とつながりのありそうな記事を選び、内容を友だちに伝えると同時に、話し合いを通してその記事と自分たちとのつながりを考えるようにさせた。

- ・教師が選んだ新聞記事について、その記事が自分たちとどんなつながりがあるかを考えさせた。（トキ 佐渡の空へ・リンゴ被害～地球温暖化の影響）
- ・教師と同様に、自分で記事を選んで友だちに紹介し、その記事と自分たちの間にどんなつながりがあるのかを友だちに問いかけ、話し合った。

③新聞から自分とつながる記事を集める（10～11月・朝と帰りの時間）

新聞を読んで、自分とつながる記事を毎日1つ以上選び、スクラップする。

- ・N I E 指定校で配達される新聞を利用する。

④新聞等を作って伝え、つながりを共有する（11月中旬～・約15時間）→**本単元**

集めた記事をスクラップ新聞等に再構成して、記事を集める中で発見した自分とのつながりを友だちに伝え、そのつながりについての感想などを話し合う。

(2) つけたい力の決め出し

〈学習指導要領のねらい〉に結びつく力

- ①豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚の育成

←新聞の中に興味のある記事を見だし、主体的に読むことを通して、社会事象への関心や理解を高める。

②自ら学び、考える力の育成

←記事を継続的にスクラップする中で、自分のテーマを設定し、テーマに沿って意欲的に記事を集めたり、記事の内容を友だちに伝えようと分かりやすくまとめたりするなど、主体的に学び考える力を育てる。

③個性を生かす教育の充実

←集めてきた記事が、そのまま自分の興味関心や価値観を表すことから、記事を見返すことで自分自身の興味関心や価値観を自覚する自己発見力を培う。また、友だちに自分の生き方や考え方を伝える自己表現力を培う。

(3) 単元展開

① 単元のねらい

ア、新聞を毎日読み、自分とつながる記事を進んで毎日スクラップすることができる。

イ、自分の集めた記事を見返し、それを使って友だちに伝えたい内容や方法を決め出すことができる。

ウ、集めた記事を使って、伝えたいことが伝わるように構成し、スクラップ新聞等を制作できる。

エ、自分と新聞記事とのつながりを明確にして友だちに発表したり、自分と関連づけて友だちの発表を聞いたりすることを通して、より強い意欲や目的意識を持って新聞を読むようになる。



② 単元の展開

学 習 活 動	教師の指導・支援	時
1 新聞を読み、自分とつながる記事を集める 「新聞記事を読んで、毎日一つ、自分とつながると思う記事を集めよう。」	・新聞の見方を指導する。 ・新聞を読む時間（朝の読書の時間）と記事を集める時間（放課後）を確保する。	／
2 集めた記事を見返し、それを使って友だちに何をどう伝えるかを考える 「こんなつながりを見つけた。集めた記事を使って、それを友だちに伝えよう。」	・伝えたいことがはっきりしない児童との対話をし、伝えたいことを一緒に決め出す。	1
3 伝える方法を決定し、集めた記事から取捨選択してスクラップ新聞等を制作する 「つながりが伝わるように記事を選んだり配	・見つけたつながりが伝わりそうか問いかけ、そのための工夫などを促していく。	1

置したり書き込んだりしていこう。」		
4 自分がまとめたスクラップ新聞などを発表し 記事とのつながりや自分の考えを伝える 「自分とのつながりが伝わったかな。」 5 気づき・疑問・感想を話し合い、発表した友 だちが見つけたつながりを認めたり、さらに新 たなつながりを考え合ったりする。 「自分たちとつながるところがあるんだな。」 「これからもつながりを見つけていこう。」	・自分と記事とのつながりがよくわかるように 発表させる ・発表を聞いて、そのつながりをどう思うか、 さらにつながりがないか話し合うようにさせ る。 ・つながりの捉えが浅いと思われるときは、教 師が問い直して考えさせる。 ・各自の学習の様子から友だちと関われそうな 部分を予めとらえておき、意図的に指名する。	4

(5) 本時案

① 主 眼

自分が集めた新聞記事からスクラップ新聞や本を制作した子どもたちが、集めた記事と自分とのつながりを友だちに伝え、友だちからの気づき・疑問・感想などの反応を聞くことを通して、または、友だちの発表を聞いて、その記事と自分たちとのつながりをあらためて考え話し合うことを通して、新聞記事の内容に関心を深めることができる。

② 展 開

段階	学習活動	予想される児童の反応	支 援・評 価	時間	備考
導 入	1. 前時を振り返り 本時の発表や話 し合いのめあて を持とう。	○前時の発表で、つながりが見つ けられたな。 ・本時はどんな発表かな。 ・発表をよく聞いて、つながりを見 つけよう。	○前時の感想を紹介し、本時の意 欲を持たせる。 ・本時の発表児童を紹介し、どん な話し合いにしたいか簡単に発 表させる。	4 分	前時の 学習カード
		学習課題 … 今日、新聞記事とのつながりをたくさん見つけよう			
展 開	2. 集めた新聞記事 を友だちに紹介 し、記事が自分 たちとどんなつ ながりがあるか 話し合おう。	○発表の手順 ①発表児童が、集めた記事を見 せ、記事の内容を紹介する。 ②発表児童が、それらの記事と 自分とのつながりを発表する。 ③発表児童が「この記事やつな がりについてどう思いますか」 と友だちに問いかける。 ④記事についての感想やつな がりについて話し合う。 (相互指名) ⑤最後に、発表児童が感想を述 べる。	○手順に沿って発表や話し合いを 進めさせる。 ・発表者の発表テーマや記事との つながりを板書する。 ・話し合いで出 されたつながり について板書する。 ・記事とのつながりが浅いと思わ れるときは、教師が出て問い返 すようにする。 発表された記事と自分たちと のつながりを考えられたか。 (発言)	各 9 分 × 4 名	

I 児：毒を入れている人は食べ物で粗末にしていると思います。

S 児：毒とかを入ると死んじゃったりすると分かってるのにやっているから、やってほしくないです。

T：ごめんね。あと1人。

Y 児：私はそのカップラーメンを食べたことあるから、今度カップラーメンを食べる時は気をつけたいです。

T：たくさん意見が出ましたね、きのうもあったね。Kさんの『農薬新聞』。その時よりもたくさんの意見が出ましたね。A君、感想をお願いします。

A 児：僕たちもよく食べる食品に毒が入ってたから、こわいと思いました。

T：今日は毒について勉強できましたね。A君、たくさん意見をもらってよかったね。

【考察】この時期に何度も新聞に載った食品汚染関連の記事を集め発表した児童が4名いた。記事と自分たちとのつながりを考える練習場面でも取り上げられていた内容なので、スクラップの段階でも関心を持って集めたと思われる。食品汚染についての発表は前日もあり、A児は2人目だったが、前日出ていた意見と関連づけて発言する児童も多く、話し合いは深まっていた。「ひどい」という憤りの表現をしている児童も現れ、話し合いを通して、さらに社会的事象に目を向けていくことが分かった。



③ B児『いいこと・きけんなこと新聞』の発表場面

B 児：私の新聞の題は、『いいこと・きけんなこと新聞』です。私が一番目に紹介したいのは、10月30日の『稗の底をオペレッタに』っていう記事（本校で取り組んだ全校オペレッタの記事）で、オペレッタをやることは、昔のことを想像したり、こんな暮らしをしていたんだなあと思えるから、いいことなんだと思います。記事やつながりについて…。

T：ちょっとまって。今、いいことを発表してくれたから、危険なことも幾つか書いてあるから、全部を発表してみて。

B 児：11月9日の新聞で『新聞って楽しい』っていう記事で、スクラップをやっていることはみんなのことが分かるから、新聞スクラップはいいことだと思います。『カップ麺から防虫剤成分』っていうのは、ほとんどの人がカップ麺を食べていると思うから、危険だと思います。11月7日の『小学3年生が3kmも車を運転した記事』で、もしかしたら車が止まらなくなるかもしれないから危ないと思います。小学3年生が車を3kmも運転するなんてとても思えない。もし事故があったら危ないし、親の運転を見たりゲームで覚えてもやってはいけないと思います。『キノコ採りで5歳の女の子が行方不明になった』記事です。

キノコ採りで前に行方不明になった人は、知っている森や林でも何処か分からなくなって、何日も経ったりするから危険。もしかしたら迷っている時にも寒くて凍えたり動けなかったりするかもしれない。10月29日の『あきたとうサン』の4コマ漫画で、クマに遇うと危険なので、自分たちがそんなことになるかもしれないから危険なことだと思います。10月23日の『給食のパンをのどに詰まらせて死亡』という記事で、パンをのどに詰まらせることはとても危ないことだから、パンをいっぱい口の中に詰めると危険です。記事やつながりについてありますか。

O児：私は、10月23日の長野日報で、パンをのどに詰まらせると危ないし、パンは給食でも出るから、それを急いで食べるとのどに詰まらせるから、焦らないのがいいと思いました。

T児：Oさんとちょっと似てて、パンをのどに詰まらせると息ができなくなるから、急いで食べちゃいけないと思います。

F児：Oさんたちと同じ記事で、学校でも給食でパンが出るから関係あると思います。

N児：私は違って、オペレッタ稗の底の記事で、今日やる（この授業の後に歌う）からつながると思います。

G児：10月29日の長野日報で、先生が漫画も社会に関係あるからいいと言ってたから、つながると思います。

M児：私はみんなと違って、10月24日のカップ麺で、A君と同じカップ麺で、もし多くの人がカップ麺を食べていたらこわいと思いました。

P児：僕はみんなと違って、11月7日の長野日報の記事で、この記事は小学3年生が車を3kmも運転していて、僕たちも3年生だからつながると思いました。

M児：世の中はいいことと危険なことがあるけど、危険なことが多いてこの記事が教えてくれてると思います。

H児：私もP君とちょっと似ていて、小学3年生がゲームや親を見て覚えたって、そういうことはしてはいけないことだと思いました。

L児：P君と似てて、僕たちも小学3年生だから、運転したその子もまだ免許とかも取ってないから、運転してちょっとびっくりした。

R児：いくらやり方が分かってたってやっちゃいけないし、慣れた頃が危ないっていう言葉もあるし、しかもまだ3年生で9歳か8歳だから、まだ免許とか取れる歳じゃないから、やっちゃいけないと思いました。

A児：僕はみんなと違って産経新聞の10月20日のキノコ採りのことで、キノコ採りの時は、親を見ながら親についていけないといけないと思いました。

T：危険なことをBさんは幾つも集めてくれましたけれど、それぞれ危険だという意見が出ましたね。感想をお願いします。

B児：私は小学3年生が3kmも車を運転した記事で、危険なのでそういうことはやめてほしいと思いました。

T：皆さんは、意見も出ましたが、いいの運転して？

児童：ダメ！

T：分かっても、Rさんだっけ、やっちゃいけないって言ってたよな。そんなことをやるとどうなっちゃうんだ？

児童：事故になっちゃう。

T：それに、これみたいに新聞に載っちゃうんだぞ。

【考察】B児が選んだ記事は、ほとんど子どもに関わる記事であった。子どもである自分とつながるという視点で、小さな記事も見逃さずに読んでいたと思われる。つながりという視点を持つだけで、自分にも起こりそうな危険を知ったり、自分がしている活動のよさを発見したりしている。発表を聞いた子どもたちも共感し、記事の内容と自分たちとをつなげて発言していた。

(7) 実践後の子どもたちの変容

新聞を読んだりスクラップしたりする活動は10～11月の2ヶ月間で終了した。この実践を通して、家で新聞記事やテレビのニュースへの興味や関心が変化したかどうか、家庭アンケートを実施した。以前とあまり変わらないという回答が3名だったのに対して、以前より新聞やニュースに関心を持つようになったという回答は25名あり、具体的な姿も以下のように寄せられた。

- ・首相の名前や事件などが会話に出てきたり、株って何？とか社会的なことの質問をするようになったり、世界のことも話題に出て、新聞の学習により、色々なことを感じたり考えたりするようになった。
- ・新聞やニュース番組を見る機会が増え、学校で扱ったり自分で調べたりした記事や、それに関する先生の余談？を、解説委員のように話してくれた。農薬等のカタカナ用語もスラスラ言えるようになった。国の名前が出ると世界地図を見ていた。詳しくは分からなくても、オバマさん・麻生さんに興味を持っている。
- ・テレビでニュースを見ていたり家族で話したりしていると、突然「あのね、～だよ。」と発言してくるようになった。こちらもびっくりするような内容まで説明してくる。子どもは興味を持つとすごい。
- ・「こんな事件があったってね。私はその事についてこう思う。」とか、ニュースがテレビから流れていると「このニュース知ってる。新聞で見た。」とか、新聞の1面から中のページまで「こんなにインドのことが書いてある。」とか、政党のこと、総理大臣のこと、アメリカの大統領選挙のこと等を口にする。
- ・朝起きると新聞をポストへ取りに行くようになり、スクラップすることを楽しんでた。テレビのニュース番組には興味がなかったが、関心が高まり、よく見るようになった。
- ・私よりニュースなどに詳しく、そのことについて解説してもらったりした。また、テレビのニュースをきちんと見るようになった。
- ・毎日少しの時間でも新聞を見るようになった。テレビのニュースでやっている記事を探すこともある。記事を読めなくても、とても興味を持って新聞を読むようになった。
- ・見出しを見て、どういう意味か訊くことが多くなった。テレビで今日の出来事を知り、新聞を見て再確認し、内容を理解している様子だった。悲しい出来事があると心を痛め、いい事や悪い事をきちんと理解できるようになったし、その事で家族の考えも訊くようになった。新聞の授業が終わってつまらないと言っている。
- ・テレビで事件などのニュースが流れると、どういう事件なのかと詳しく訊くようになった。最近は食の安全についてのニュースがあるので、「これは国産か中国産か？」と訊くように

なった。

- ・テレビのニュースに関心を持ち、質問をする。新聞を読んでいると、のぞき込んで切り抜きのチェックをする。学校で先生や友だちから得た知識を教えてくれる。

以前より新聞記事やテレビのニュースへの興味や関心が高まったことは明らかだった。ニュースや記事について質問したり，中には解説したりする子どももいる。また，家でも新聞に目を通したりスクラップをしたりする子どもがいる。この様子から，社会事象に対する興味関心が高まったと考えられる。

5. 研究のまとめ

昨年度の，好きな記事をスクラップしていく活動でも，4コマ漫画やきれいな写真を中心に子どもたちは楽しんで積極的に取り組んでいたが，本年度，さらに社会の出来事に関心を持ってほしいと，〔記事と自分たちとのつながり〕

を意識してスクラップさせたことで，記事の内容に目を向け，社会的事象が取り上げられたことは成果であった。このことは，表1と表2を比較しても，昨年度多かった写真や絵・4コマ漫画のスクラップが本年度はなくなり，社会事

象を取り上げている子どもの比率が高くなっていることから明らかであると考えられる。また，友だちの集めた記事や，その記事と自分たちとのつながりについても関心を持ち，社会的事象に目を向けられることも分かった。さらに，家でも新聞等のニュースに関心を高めた姿があり，実践を通して社会事象に目を向け，社会的視野を広めることができたのではないかと考えられる。自分とつながる記事という視点で新聞を読むことは，3年生にも十分可能であり，子どもの社会性を養うために有効な手段であると思われる。

6. 残された課題

2年間実践した3年生・4年生という中学年の児童にとっては，難しい言葉や読めない漢字が多く，内容を読み取ることは困難であった。しかし，写真や見出しを手がかりに，興味ある記事や自分とつながる記事を選び出していけることも分かった。スクラップという活動を行い，主体的に記事を選ばせるようにすることで，中学年児童でも十分に新聞を活用できると思われる。

また，NIEの観点から，新聞の入手は大きな問題となることが予想される。今年度の3年生で調査したところ，新聞を購読していない家庭が数軒あり，さらに，購読している半数が地方紙のみであった。今回は無料で2ヶ月間購読できたが，このように学校または学級で

表1 子どもが選んで発表した記事（昨年度）

①きれいな写真や絵	6名 33%
②趣味（囲碁・将棋・野球・好きな物）	5名 28%
③4コマ漫画	4名 22%
④自然（自然保護）	2名 11%
⑤地域の出来事	1名 6%

表2 子どもが選んで発表した記事（本年度）

①自然（自然保護）	12名 40%
②スポーツ（野球）	8名 27%
③食品汚染	4名 13%
④その他	6名 20%
→ノーベル賞・テロ・宇宙・地球温暖化 身近な事件・4コマ漫画（各1名）	

購読しなければならない実践であった。本実践のような形で新聞活用を図るには、新聞社が安価で学校や学級に新聞を提供していただけるようなシステムが必要であると感じた。